

3つのポリシー(英語国際学部英語国際学科)

<p>建学の理念</p>	<p>「公正な世界観にもとづき時代と社会の要請に応じていく実学」の教授研究を通して、「国際社会に貢献できる豊かな教養を備えた人材」を育成します。</p>
<p>大学の教育理念・方針</p>	<p>・言語を「コミュニケーション・ツール」として位置づけ、より実践的な言語教育を行います。 ・他国の言語・文化を修得・理解するレベルにとどまらず、日本語・日本文化の礎を踏まえ、自らの考えを自由に発信できるより高度で創造的なレベルでの言語運用能力の修得をめざします。 ・言語教育にとどまらず、平和な国際社会の構築に貢献しうる人材として必要な「国際学」「外国学」に関する国際教育に力を注ぎ、豊かな人間性に裏付けられたコミュニケーション力を培うための教養教育を重視します。</p>
<p>学部(学科)の人材養成目的</p>	<p>(英語国際学部 英語国際学科) 英語、中国語、海外留学等における学修をもとに、国際的なコミュニケーション能力や異文化理解力を育成します。加えて、グローバル社会のあり様、人間の叡智や文化の多様性に関する幅広い教養を基盤とし、総合的・分野横断的な思考力、情報デジタル社会に対応できる力、課題発見・課題解決力などを発揮しながら、力強く未来を構想し新たな価値を生み出せる人材、世界の持続的発展に貢献できる未来創造型のグローバル人材の育成を目的とします。</p>
<p>学位授与の方針(DP)</p>	<p>本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・能力などを身につけた者に、「学士(英語国際)」の学位を授与します。 1. 英語、中国語、海外留学等の学修により、多様な人々と主体的にコミュニケーションを行うことができ、異なる文化や価値観を受容し、柔軟に対応することができる。 2. グローバル社会のあり様、人間の叡智や創造性、文化の多様性や共生、国際協力や持続的発展のあり方など、社会科学・人文科学に関する幅広い学びを通し、総合的・分野横断的な思考力と多角的な視点を身につけ、課題解決に活かすことができる。 3. デジタルコミュニケーションに関する基礎的なリテラシーを修得するとともに、現代の情報社会のあり様、その発展性、可能性を理解し、時代の要請に応えることができる。 4. 現代社会が抱える多様な課題、その解決に向けた革新的な動向やイノベーションの本質を理解するとともに、世界の持続的発展に向けて未来のあるべき姿を構想し、新たな価値を創造することができる。</p>
<p>教育課程の編成・実施の方針(CP)</p>	<p>[教育課程の編成にかかる基本方針] 本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力などを修得させるために、専門教育科目、全学共通教育科目を体系的に編成し、開講します。 (1) 外国語科目については、本学がこれまで培ってきた外国語教育、国際教育を基盤として、1年次から3年次まで継続的・発展的に知識と能力の向上が行えるよう、各授業科目をバランスよく配置します。 (2) 専門教育科目を5つのフィールド科目群(Field 01~05)と関西外大流グローバル人材育成プログラムに区分し、基礎から発展、完成へと、卒業まで順次的・体系的に学修を行えるようにします。 (3) フィールド科目群においては、多様な授業科目を有機的に連携させることにより、総体として未来創造型グローバル人材の基盤となるクロスオーバーな視点や洞察力、創造的な課題解決能力を養成することをめざします。 (4) 関西外大流グローバル人材育成プログラムにおいては、外国人留学生とともにオールイングリッシュで授業を受講することにより、海外留学レベルのグローバルスタンダードな学びを提供します。</p> <p>1. 教育内容について (1) 1年次を外国語力の集中育成の段階と位置づけ、英語に加え中国語を履修します。コミュニケーション能力はもとより、グローバル社会を理解し、広く学際的教養を修得するとともに、思考力、洞察力、表現力等の向上をめざします。 (2) 本学独自の多彩な留学プログラムによる海外提携校への留学を推奨し、留学先大学での学修を通じて、国際的コミュニケーション能力および柔軟に異文化に対応できる力の修得をめざします。 (3) 「グローバルリベラルアーツ」科目(Field 02)では、1年次の基礎科目「リベラルアーツベーシックス」において、学習領域の境を超えて必要となる汎用的リテラシーを修得します。2年次以降は、「グローバルシステム&ソーシャルサイエンス」において社会科学の視点からグローバル社会のあり様を読み解き、理解します。「アーツ&ヒューマニティーズ」では人文科学の視点から人間の叡智、感性、創造性について洞察を深め、課題解決のための源泉とします。「ダイバーシティ&SDGs」では、多様性や多文化共生、世界の持続的発展について探求し、地球的課題の解決のあり方について学修します。 (4) 「AI&デジタルコミュニケーション」科目(Field 03)では、現代社会の基盤である情報やデジタルツールに関する基礎的リテラシーを修得するとともに、デジタル技術と社会やビジネスとの関係性、その活用のあり方と発展可能性について学修します。 (5) 「フューチャーデザイン&イノベーションスタディーズ」科目(Field 04)では、グローバル社会の様々な分野における革新的な動向、産業やビジネスの変革、イノベーションの諸相を理解し、社会的課題、地球的課題に対する創造的な解決のあり方について探求します。また、未来のあるべき姿を構想するための手法、新たな価値を創出するための方法論について学修します。</p>

3つのポリシー(英語国際学部英語国際学科)

教育課程の編成・実施の方針(CP)	<p>2. 教育方法について</p> <p>(1) 1年次・2年次の英語科目においては、英語外部試験による客観的な指標によりクラス編成を行い、少人数によるクラス編成により各自のレベルに応じた科目履修を行います。</p> <p>(2) 主体的に学ぶ力を高めるため、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどの教育方法を活用したアクティブラーニングを展開します。</p> <p>(3) 総合的な思考力、創造的・実践的でコラボレートな課題解決力を高めるために、社会的課題をテーマとしたワークショップ型授業、産業界や行政と連携したプロジェクト型授業(PBL)を実施します。</p> <p>(4) クラスアドバイザー制度により、大学での学びの早期適応、4年間の学びを通して順次的・発展的に学修が行えるように学修支援ならびに指導を行います。</p> <p>(5) 本学独自の多彩なプログラムによる海外提携校への留学を推奨し、留学先大学での学修を通して、知識、国際感覚、グローバルな視野などを修得します。</p> <p>3. 学修成果の評価について</p> <p>学修成果の評価は、単位修得の確認などにより行います。</p> <p>(1) 修得科目、留学等の経験、およびクラスアドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオにより、学修成果の達成度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。</p> <p>(2) 長期留学にかかる英語力については、TOEFLなどの英語外部試験、また中国語については中国語外部試験(HSK)の客観的な指標を設け学修成果を検証します。</p>
入学者受入れの方針(AP)	<p>本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、高等学校での学習を通しての基礎的な知識として、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。</p> <p>1. 求める人材像について</p> <p>高等学校までの履修内容を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で、</p> <p>(1) 高等学校での学習・活動を通しての基礎的な知識・技能や目的意識・意欲のある人</p> <p>(2) 国際的なコミュニケーションを可能にする英語力、中国語力の向上、ならびに未来創造型グローバル人材として必要な知識や能力(幅広い教養にもとづいた分野横断的思考力、情報デジタル社会に対応できる力、未来を構想し新しい価値を創造できる力等)を修得し、国際社会で活躍するキャリア形成をめざす強い意志と情熱を持つ人</p> <p>2. 評価方法について</p> <p>上記のような学生を選抜するため、形態ごとに以下のような試験を行い、本学で学修するための基盤となる学力などについて評価します。</p> <p>(1) 一般選抜</p> <p>ア. 一般入試</p> <p>個別学力検査(外国語、国語)により評価します。また、本学の教育プログラムや海外留学で求められる語学力と思考力・判断力を備えた入学者を選抜する入試については、英語の資格・検定試験を活用するなど、多面的・総合的に評価します。</p> <p>イ. 大学入学共通テスト利用入試</p> <p>大学入学共通テストの得点により評価します。</p> <p>(2) 学校推薦型選抜</p> <p>ア. 公募制推薦入試においては、基礎学力検査として英語を課し、調査書等、学校長推薦書を総合して評価します。</p> <p>イ. 指定校制推薦入試においては、書類選考および口頭試問(面接)を総合して評価します。</p> <p>(3) 特別型選抜</p> <p>ア. 特技入試においては、書類選考、小論文、口頭試問(面接)を総合して評価します。</p> <p>イ. 社会人入試においては、書類選考、筆記試験(英語、小論文)、口頭試問(面接)を総合して評価します。</p> <p>ウ. 帰国生徒入試においては、筆記試験(英語、小論文)、口頭試問(面接)を総合して評価します。</p>

2017年4月1日施行(2017年3月11日制定)
 2018年4月1日施行(2018年2月26日改定)
 2018年9月1日施行(2018年10月19日改定)
 2020年4月1日施行(2020年3月7日改定)
 2021年4月1日施行(2021年3月10日改定)
 2022年4月1日施行(2022年3月26日改定)